

ベンゼン・C₆H₆

保護具	中毒が発生した時の応急措置	取扱上の注意事項	生ずるおそれのある疾患の種類及び症状
<ul style="list-style-type: none"> ○ 適切な呼吸器保護具（有機ガス用防毒マスク、適切な保護手袋（化学防護手袋）、適切な眼の保護具（側板付き保護眼鏡、ゴーグル型、全面保護眼鏡））適切な保護衣（長袖保護衣）を着用すること。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 吸入した場合・・・空気の新鮮な場所に移させ、呼吸させるが、酸素吸入する。呼吸が止まっている場合は人工呼吸を行う。医師の診察、手当を受けること。 ○ 皮膚に付着した場合・・・汚染された衣類を脱がせる。皮膚に付着した部分を流水と石鹸で十分に洗浄する。医師の診察、手当を受けること。 ○ 眼に入った場合・・・流水で10分間注意深く洗うこと。コンタクトレンズを着用している場合は外せる場合は外し、洗浄を続けること。医師の診察、手当を受けること。 ○ 飲み込んだ場合・・・口をすすぐこと。無理に吐かせないこと。医師の診察、手当を受けること。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 作業場所の換気を良くする。ガスは空気より重いので床面での十分な換気も必要。排出された空気は作業場所に戻さない。 ○ 必要に応じて排出規制値を考慮した排ガス浄化装置を設置する。 ○ 取り扱い場所の近くに洗眼及び身体洗浄のための設備を設ける。 ○ 床に排水溝を設けないこと。 ○ 容器を開けたままにしない。容器を接地しアースを取る。 ○ 飛沫、接触を避ける。圧縮空気で輸送してはならない。 ○ 機器類は防爆構造とし、設備は静電気対策を実施する。 ○ 周辺での高温物、スパーク、火気の使用を禁止する。 ○ 静電気放電に対する予防措置を講ずること。 ○ 皮膚や眼への接触を避ける。接触した場合は洗浄する。蒸気またはミストの吸入を避ける。休憩前や作業終了時には石鹸と水で皮膚を洗い、洗浄後は脂肪分の多いスキンケア製品を塗布する。 ○ この製品の使用時には飲食、喫煙は禁止。 ○ 地面や河川、下水への流出を避ける。少量でも流出した場合は、自治体に連絡する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 吸入すると有毒（吐気、頻呼吸、気管支痙攣、肺水腫・肺出血・肺炎の危険性、粘膜への刺激の可能性） ○ 皮膚刺激（脱脂、長時間の接触後→炎症） ○ 強い眼刺激（液体による灼熱痛、角膜上皮の損傷） ○ 遺伝性疾患のおそれ ○ 発がんのおそれ ○ 生殖能又は胎児への悪影響のおそれの疑い ○ 心血管系、中枢神経系の障害 ○ 呼吸器への刺激のおそれ ○ 眠気又はめまいのおそれ ○ 長期にわたる、又は反復ばく露による造血系、免疫系、中枢神経系の障害 ○ 飲み込んで気道に侵入すると生命に危険のおそれ（悪心、腹痛、シンガリ感、嘔吐、下痢、多幸感、酩酊感、頭痛、運動失調、痙攣の可能性、その後麻痺と昏睡、呼吸麻痺または心血管系不全の危険性） ○ 水生生物に毒性 ○ 長期的影響により水生生物に毒性